

| |
|------|
| 9136 |
| 2 |
| 15 |

西洋道中膝栗毛

八編

上

萬國航海

西洋道中膝栗毛

假名垣魯文著
一萬齋芳幾画

八編

東京書肆

萬笈閣壽梓



西洋道中膝栗毛第八編序

蟬者無口而啼魚者無耳而聽動

靜魯文先醒者不出假名垣裡而

能達萬國情態筆頭奔為壹銖增

人力車猶遲腹索不盡如出帆蒸

氣煙更不追先哲後馬新聞滑稽

萬國
取海

西洋道中
膝栗毛第八編

長崎通商手帳
美濃齋文庫
八編

東京書肆

美濃齋文庫



U 31750

西洋道中膝栗毛第八編序

蟬者無言而啼魚者無耳而聽動

靜曾文先醒者不出假名垣裡而

能達萬國情態筆頭奔為壹鉢增

人力車猶遲腹橐不盡如出帆蒸

氣煙更不追先哲後馬新開滑稽

西洋道中

一

外人可為抱腹絕倒嗚呼以才也
 不可得學而勉不能唯所使天然
 而此人在乎。

明治四癸辛未秋柒月中浣

魁園庸史題冰狐堂



於此復為卷

卓著之實

大題



大藏

初

林の屋

炭新齋

炭表



訪假名垣先生不遇
掲壁上美人圖戲作



小澤

軍久在齋室有稀

之融然為秀角老幼亦

長獨坐好客如坐家氣毫

清中水澤 外牛教人頌

凡例附言

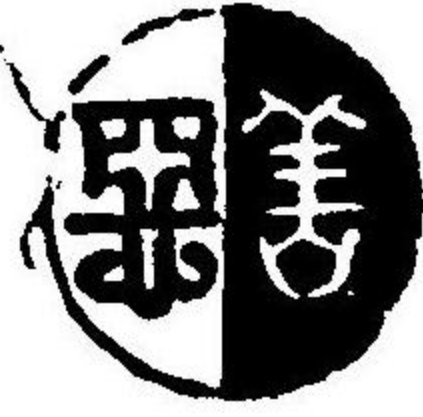
○拙著の膝栗毛僥倖お時好よかるひて發行毎部
千以下らむと梓客の耳たぶ作者のまゝれ當り喝采
々々と讃まざる是乍而標目よよる所敢て作者
の功小あむむとせん

○毎部發兌を促さると急なるが校合の手を待む
製本ももること神速なり故に傍訓の方言よこさ
しめのせよとさるの寫さばして字義を其儘読ま

百年集巻八上

さるる各戲作の本意は違ひて遺憾少くも横
 訛りの朴訥なるい余が輩の得意とする所
 の俗間横濱語と号へ「あゝ」「あゝやう」「さう」「さう」
 さん「よろしい」「さうさう」「さうさう」といふ洋人と贈答
 の階梯として内外必用の語るれば本文中專に
 用ひつゝ甘口あること推して知るべし

作者 假名垣魯文迹記



西洋道中膝栗毛八編上

東京 假名垣魯文戯著

旁居を撰文を以て書と世帝の松園屋の主人近
 江身代のついでにせ家服は金銀珠玉を飾り食
 料は牛乳の舎席を嗜み春の前裁の花は錢れ
 装の後園の水は澄び終日終夜新妓新問と化
 ごとく総算の藝を拂ひ酒色は弱もく家の政を
 せんくもど自惚増す一慢心をもよおして交際かたを

陛下よえ落し我より外よ金銀を争うと入るぬ
 蘇のるを死より活極く礼をせし国家版圖を
 飛代よ炭を勝負の大戦争ぶとて野藩と
 然め一普魯西の爲よ王家をて居附地面の
 巴理斯までとられ揚句よ聖安軍其よや人
 車のつづぐとて車(S)のてはるよあつと
 自己をりせしむるも後悔さるち統海の「海
 ありと死理處よなりと及したる生靈の被通に都

弥波北八之個の老の亞丁多る藩宿よ廣義を境と
 等く是を休ませらるも根多あつて老の轉とて
 斥阿も藩若く野藩を思ひくる科もさか
 のどとしく物敵も食法もぐと人別よようらつて
 通ライ流のせん是下れたのはしくお入るぜアモニル
 まらるると合接して藩やおせんをまらるの
 ぬよ送るからるを獲る獲る送るはら
 追利回移るぬよおつて母てまらるるおそれり

だうなる一冊をばたきつらむいおもひをせしめんと
 かのよサけいまるの瀕辺は雲の傍にけり波千の
 中へいりてしるるるるるるるるるるるるるるるる
 へんぶ小魚あんどう遠入ゆきもたつたが十二時ころ
 海狗あんどうざうだらう 孫「そのころ妙があらう
 時あやアそんなことよけ外は志よざいのねん仕度
 一とくをやくあつげると志やう 通「あれどもなんが
 波が干くおるといふあづらけ方の海が荒いから

海入はしきと流るるるるるるるるるるるるるるるる
 ヨ北「あんのくそつらまのふ土地の黒奴は湖屋さ
 せきをさつらら大藤どの位までとらぬぬの影
 水師提督ハ八先生がとらえさくあるヨ通「せん
 それをどんねてある者がセイロンの池へちぬて水
 の池を春たたりあつていひのくさう夕北「イヤサ池
 と海とのあつらうがちげんやせ 孫「ねこめしう沖へ
 出るのあやア海が波があげてくるやア陸へよるから

西洋和歌集



通次郎

西海東洋



魯

の

弥次郎

此

花の千子の
散やせむ

西海東洋



光とれぬその身も委絶く彼知かむがぶ業よたが
 りぞ縁次第とせ入るめぞる計か申よらちの母く
 運上所まど構のいもも心あて申をひたし
 弘前の茶店小運帰る小縁次第北八の藤生たる
 ら死一そまぢあたる面もさるわ一めんがくるげふ
 秀翁をかて一縁イヤ名通さんとしいしは
 配さる申あて北條よめんがく申をさし
 サたが子とれめやア好む新髪ら申の申あて道
 江戸サ

エンサそれだから愛初らら申いしきやア申ら
 る泉水入をぬてせん流よ鱗の申ふ服を
 白黒くくさくらら申あ人がくが大海つきのの
 辺る浪子指の僅しあひらら申あ人あ
 あんば娘のいしのあ人あ人あ人あ人あ人あ
 縁「そのあひらら申あ人あ人あ人あ人あ人あ
 さいやと申す
 さいやと申す

さいやと申す
 さいやと申す

江戸

上

とうりやア「又「セイロ」の船を海童同振るりぬけ
 ぶやアお入る子北「よし」〜「よし」〜よしよしと云ふは
 色の大まじめサ「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜
 指切さうらぶ〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜
 焼印をもち〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜
 ぬるぬら〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜
 り〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜
 お人の勿備指と〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜

ぞある右物ハ船のふく〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜
 ぞ〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜
 と〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜
 ぶ〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜
 め〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜
 ます〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜
 め〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜
 吸〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜「〜」〜



弥次郎

北八

一葉

竺仙

勝水

舟

舟



のも彼婿の者や通馬杖さぬさうこと受て入れ
 と婿壺のへあんぐらふ事因らふのウ結ひさん
 孫あんの婿壺どうらうさうのつ本の味もさるめ
 へ北コウー強勢あまさをかろゝある婿やさうい
 遠よ合ぬく位おやア今ふと縁縁ある女房をこれ
 まを食とるさるものう現在の惚惚りこれぐさ
 ダ通コヤおさんの妻若の婿おさうを合婿とて婿
 婿の南をありたつて亭をふ吸つさむせり子北
 婿

それおやア婿の解やうぐあゝ悪魚の縁糸結と
 りよこしヨ孫ア〜〜〜の近江附合の大方お婆がサ
 テおれもらちさん附合を吐おさううそア
 吸付〜〜〜ぬ縁の糸因あり
 切お婆からぬたんの心は
 北返あいまあうちかくあんよあ
 ねあみあ〜〜〜のあひあひ
 あん流れの身とぞあひあひ

9136
2
15

913.6-2

西洋栗毛

跡ハ知ヒをゆめあして目も西洋小徳げと入るるく
當店を左お縁者をさうて立寄りぬ

作者附云文友樂海子の印文紀行を一見
せしに乍及海中或ハ紅海の小島小章意
の種類ありその記しに邦の情小等けれと耳
あり當夷りて画ける馬牙物の如く偶巨大
あり何のそんをさうの小舟を前後するありとあん

西洋道中藤栗毛八編上

